

乗用車の平均使用年数は7年連続で最高齢に 自家用乗用車(軽自動車含む)は1世帯に1.104台普及

財団法人自動車検査登録協力会(理事長 中田敏郎)は11月15日、「平成16年版わが国の自動車保有動向」(平成16年3月末現在における自動車の平均車齢、平均使用年数、世帯当たり普及等)を発行した。それによると、自動車の平均車齢は乗用車6.58年、貨物車8.17年で、いずれも前年より延び、当会が統計を取り始めた昭和49年以降で最高齢となった。自動車の平均使用年数は、乗用車10.97年、貨物車11.88年となり、平均車齢同様、いずれも過去最高となった。また、自家用乗用車(軽自動車を含む)の世帯当たり台数は1.104台となり、前年同様42道県で1世帯に1台以上普及している。低公害車の保有台数は14万8,100台で、前年に比べ42.3%の大幅な伸びをみせている。

平均車齢(人間の平均年齢に相当。軽自動車を除く)

平均車齢は、国内でナンバープレートを付けている自動車が新規登録されてからの平均経過年数。乗用車の平均車齢は6.58年となり、前年と比較すると0.19年延び、11年連続して過去最高となった。10年前の平成6年と比べると1.83年延びている。

車種別にみると、普通乗用車は6.38年で、前年に比べ0.35年延びた。普通乗用車は平成元年の自動車税制の改正以降大幅に若返りが進んだが、新車需要の延び鈍化などから平成6年以降高齢化が進んでいる。小型乗用車は6.70年で、0.11年の延びに止まった。

貨物車の平均車齢は8.17年で、前年と比較すると0.07年延び、12年連続して高齢化し、昭和49年以降で最高齢となった。

車種別にみると、普通貨物車は8.75年で、前年に比べ0.05年延び、小型貨物車も7.87年で、0.10年延びているが、延び幅は鈍化傾向が続いている。

平均使用年数(人間の平均寿命に相当。軽自動車を除く)

平均使用年数は、国内で新規登録されてから抹消登録するまでの平均年数。乗用車の平均使用年数は10.97年で、前年に比べ0.20年延び、7年連続して過去最高となった。10年前の平成6年に比べ1.71年延びている。

車種別にみると、普通乗用車は10.00年で、前年に比べ0.30年延び、平成6年以来、再び10年台となった。小型乗用車は11.26年で、前年に比べ0.23年延びた。

貨物車の平均使用年数は11.84年で、前年と比較すると0.61年延び、6年連続して過去最高となった。

車種別にみると、普通貨物車は13.24年で、前年に比べ0.49年延び、初めて13年台に入った。小型貨物車も11.27年で、0.54年延び、11年台に入った。

自家用乗用車の世帯当たり台数は1.104台

平成16年3月末現在の世帯数は4,983万7,731世帯、自家用乗用車の保有台数は5,502万983台で、自家用乗用車(軽自動車を含む)の世帯当たり台数は1.104台となり、前年に比べて0.004台増加している。世帯数は前年に比べ1.2%増えた。小型車は2.0%減少したものの、軽自動車が7.2%増えたことで普及を押し上げた。

都道府県別にみると、世帯当たり台数が1台を超えているのは、前年同様42道県であった。最も普及しているのは福井県で1.730台。以下、富山、群馬、岐阜、栃木、山形、茨城、長野、山梨、石川、新潟の順で、これら上位11県では1.5台以上の普及となっている。

都市別(自家用乗用車保有台数上位200都市)にみると、世帯当たり台数の最も多いのは前年同様、西尾市(愛知県)の1.925台で、前年に比べて0.023台増加している。2位は小松市(石川県)で、以下、豊田市(愛知県)、可児市(岐阜県)、太田市(群馬県)、伊勢崎市(群馬県)、福井市(福井県)、鹿沼市(栃木県)、高岡市(富山県)、各務原市(岐阜県)の順となっており、1世帯に1台以上保有している都市は、前年よりも1都市減って128都市となった。

全自動車(登録車、軽自動車、小型二輪車の合計)の世帯当たり台数は1.553台で、前年と比較すると、0.008台減少している。

わが国の自動車保有動向は、国土交通省の資料に基づいて当会が発行した「平成16年版 自動車保有車両数統計書」(平成16年3月末現在、全6冊)、「平成16年版 自動車流通統計書」と当会が構築した「汎用統計システム」を基に、関連する一部の外部資料を加え、わが国の自動車保有・使用実態を様々な角度から分析したものである。

〒104-0042 東京都中央区入船3-7-2 35山京ビル5階
財団法人 自動車検査登録協力会
電話03-5542-5101
<http://www.aira.or.jp>